

1、動機文

私は飛行機が大好きです。幼いころからおもちゃといえば、いつも飛行機のプラモデルなどを買ってもらっていたという記憶しかありません。別に自分が俗に言うアキバ系であるとは思ってはいませんが、こと飛行機に関してはアキバ系や飛行機マニアと言われてもおかしくはない域に達していると自覚しています。とは言っても、戦闘機やヘリコプターといったものには全く興味はなく、エアライン（旅客機）にのみ興味があります。だから、去年の10月くらいから始めて、今年7月くらいまで続けてきた1年間に渡る就職活動でも、航空会社ばかりをうけ、来年からは大好きな飛行機のそばで仕事もできることになりました。

今回、この授業を受講することになり、自分が興味のあるということを自由に書けるということが課題であるということで、自分の趣味や現在自分が所属しているサークルのことを書こうとも考えましたが、半年後には社会に出て仕事をすることに当たり、そもそもなぜ小さい頃から自分は飛行機が好きだったのか？就職活動を終えてみて、ただ飛行機が好きだったということと就職先を結びつけて考えてしまって良かったのか？という疑問を最近感じはじめた為に、今回この機会を使って、いろいろな方との対話の中でその疑問を解決していき、来年からの仕事に繋げていきたいなと思いこのテーマを設定しました。

まず、私が飛行機を好きになるようになった最大のエピソードというのは、幼い頃に某航空会社の飛行機見学会のような機会があり、その際、コックピットの中を見学させてもらい、パイロットと記念撮影をしてもらった経験があり、単純に「かっこいいな。自分もこのような仕事に就きたいな。」と考え出したことがきっかけです。だから、就職活動の際にも面接でこのエピソードをきっかけにして自分が飛行機に憧れ続けてきたことを話しました。しかし、飛行機が好きであるということ以外には、なぜ自分が航空会社という場所で働きたいのかという明確な理由というものがなくまま就職活動を終えてしまった気がしてならず不安を感じ始めています。これでは本当にただ飛行機が好きであるという、冒頭にも書いたただの飛行機マニアと変わらない気がします。別に飛行機マニアであるという自分が嫌である訳ではないし、それこそ秋葉原などに沢山いる飛行機マニアの人々を馬鹿にする訳ではありません。自分は本当に飛行機が好きでそのことに関しては誇りすら感じます。しかし、そのような思いだけではなく、これから一生付き合っていくかもしれない飛行機に対して、ただ好きだということだけではなく、思いもあるからこそ自分は、大事な就職活動とい

う時間をほとんどを航空会社に入る為に費やしたのだと思っています。だから、ここまで航空会社にこだわったという、飛行機が好きだという感情以外の思いというものをもう一度考え直して、それをしっかり言葉にして残したいなどと考えています。そうすれば、もし社会に出て辛くなったときに、これからできあがるであろうこの文章を読んで、学生時代に自分が何を考えてこの道を選んだのかということがわかり、またがんばろうという気持ちになれるのではないかと考えています。

2、対話報告

私は、自分が所属しているサークルの先輩で現在、社会人としてすでに働いている自分が尊敬する先輩（Aさん）と対話をした

Aさんは今年の3月に早稲田大学を卒業して、今年から某航空会社で働いている。自分と同じように飛行機が大好きで、就職活動の際には外資系の航空会社を含めて6社受け、第一志望の航空会社に自社養成パイロットの訓練生として内定を貰い現在は副操縦士を目指して訓練中である。自分がサークルで会った時から、出身地が同じであることや飛行機が好きであること、そして何より自分の夢とAさんの夢が同じであったことなどから、よく相談を受けたりしてもらっていた。今回、自分が、職種は違うが来年からは同じフィールドで働く先輩と対話をする事で自分の悩みや不安というものも少しは解決されるのではないかと考えていた、いろいろ悩んでいるということ先輩に電話で相談した所、時間を作って相談にのってくれるということになったので12月1日に品川で会って対話をしてもらった。対話は約1時間に渡って行われた。

1 今、自分が抱えている悩みについて

私：「就職活動を終えてみて、ただ飛行機が好きだったということと就職先を結びつけて考えてしまって良かったのか？という疑問を最近感じはじめています。」

Aさん：「とりあえずは、飛行機が大好きで来年からはその飛行機と一緒に働けるということには、喜びを感じているんでしょ？」

私：「はい。」

Aさん：「実際に社会に出て働いてもいない段階では、いろいろな不安とかあるのは当然だと思うよ。自分も去年の今頃は不安がなかったとは言えないからね。でも、喜びとかそういう気持ちがあるなら素晴らしいことだと思うよ。実際に自分は働いてみて半年近くが経つけれども、自分も飛行機が好きで今の仕事を選んだから正直言って毎日幸せだし充実はしてるよ。でも、好きという気持ちだけでは何もかもうまくいくとは限らないかな。社会に出て仕事をするということは、お金をもらうということだから厳しい現実もあるよ。自分はパイロットとして今の会社に入ったのに、入社して最初の仕事は空港カウンターでの仕事だよ。飛行機を操縦したくて、パイロットになりたくてこの会社に入ったのにあまり飛行機に接することもない仕事で、正直ギャップに悩まされた時期もあったよ。でも、これが仕事なんだよね。好きなことだけやっていたら良い趣味とかとは違うんだよ。好きなことを職業にするということは素晴らしいことだと思うよ。だけど、仕事と好きなことを一緒にして働いてしまうと、いか自分を見失ってしまうときが来ると思うよ。そんな時に、しっかりとした目標みたいなものが無ければ大変かもしれないよ。」

私：「目標。自分にとっての目標はパイロットになることでした。でも、その夢は叶わず、パイロットとは違う職種として内定を貰いました。飛行機が好きで、飛行機を安全に飛ばしたいという目標がありました。だけど、今その夢が散り目標が無くなってしまい、本当に自分は飛行機が好きだからとりあえず航空会社に行こうと思っていたのが本音です。だから今になって、明確な目標というものが無くて悩んでいるんだと思います。」

Aさん：「まず、ただ飛行機が好きだからと言って航空会社には入れないよ。飛行機好きなんていう人は、世の中に何万といるんだからさ。きっと自分には気付いてないのかもしれないけれど、何か今の職種として明確な目標があったからこそ、厳しい就活も乗り越えて晴れて内定貰えたんだと思うよ。だから、もう一度就活の時期のことを思い出してみるといいよ。」

そして、もう一つ。パイロットになりたかった時の目標が、“飛行機を安全飛ばすこと”と書いていたけど、それはどんな職種でも一番大事な目標だし、パイロ

ットでなくてもみんなが持っている目標だよ。CAも整備も地上で働いている人など航空会社で働く人間すべてが持っている目標だよ。だから、今はそれを目標にして来年頑張ればいいんじゃないの？」

対話を終えてみて

自分が来年働くフィールドで実際に働いている先輩と対話が出来たことで、今までは無かった、自分が来年の四月以降に働いているイメージというものがつかめて良かった。

Aさんも最初に話していたが、自分と同じように去年の今頃は不安があったと話されていた。その点は今の自分と同じである。しかし、去年の先輩と今の自分では決定的に違う点の一つがあった。それは、自分には航空会社に入ってから明確な目標といったものがないことであった。

元々パイロットになりたくて就職活動を始めたが、その夢は叶わなかった。そして、自分の目標というものを一時期見失っていた。今回の対話によって、自分がなぜパイロットの夢が叶わなかった後に総合職への道を選んだのか？それはただ飛行機が好きだからという理由の他に、何か目標があったからだと思う。もう一度考えてみたい。そして、結論へと持っていきたい。

3、結論

まず、今までのまとめ。

私は幼い頃から飛行機が好きで、就職活動の際には航空会社ばかりを受け、来年からは航空会社で働くことになった。

しかし、なぜ自分が航空会社という場所で働きたいのかという明確な理由というものがないまま就職活動を終えてしまった気がしてならず不安を感じ始めて

いた。というのも、元々はパイロットになることが夢であったが、その夢は叶わず総合職（地上勤務）として入社することになり、パイロットになりたいと考えていたときのような明確な目標といったものがないまま会社に入社してしまおうとしているのではないかと思ひ不安を感じていた。

そして、今回実際にパイロットとして某航空会社で働いている先輩と対話をしたことで、パイロットになりたくて航空会社に入りたかった自分の夢が叶わなかったが、それでもなぜ航空会社を目指していたのか？ただ、飛行機が好きだから航空会社を目指したのか？ということに対話の後の2週間ほどの時間を使って考えてみた。

私は小さい頃に親に連れていってもらった空港見学で、飛行機のコックピットを見学させてもらえる機会があり、もともと飛行機が大好きであった自分はその場にいたパイロットという人達が飛行機を運転するということを初めて知り、その日を境に自分にとっての羨望の的となり同時に将来の夢がパイロットになるということに代わった。（ちなみにそれまではパン屋さんになることだったらしい。）

「自分の大好きな飛行機を自分の手によって動かすことができればどんなに素晴らしいことなんだろう。」

と思ひ、大学3年の就職活動までの約15年間、ずっとパイロットになる日を夢みていた。しかし、夢が叶わなくなった今年の3月（選考に洩れてしまった日）、さすがに15年もの間抱いていた夢が叶わなくなってしまうという現実に直面しかなり落ち込み、一週間ほど何も手がつけられない時期というものがあった。それから、自分がこれからどうするのか？どうしたいのか？ということを実際に考える時期があった。その際、①アメリカに留学し自費でパイロットの免許を取り、エアラインのパイロットを目指す。②エアラインのパイロットになる為に航空自衛隊に入隊しそこで航空機の操縦士免許を取り自衛隊を定年後に航空会社を目指す。など就職を諦めて、とりあえず操縦士の免許をとろうなどということも考えた。しかし、結局のところ、自分は航空会社の総合職という道を選択した。この時、パイロットという職種にこだわることもできた。なぜ、総合職を受けようと思ひ、そしてその道を進もうとしたのか？この時何を考えていたのか？ここが今回のレポートで最も大切な部分であると思ひ。この時に何を考えていたのかを必死になって考えてみた。

私はもともと飛行機というものはパイロットの手によって運航されている乗り物だと思っていた。確かに正しいが、実際には違う。整備士、運航管理者、管制官、キャビンアテンダント、地上係員、そしてパイロットがいてお互いが協

力し合っって一つの飛行機を安全に飛ばしている。こんな当たり前なことをパイロットの選考に落ちてから航空会社のことを調べていくうちに知った。自分はどうしてもパイロットになりたかった為に、パイロットという職種のことばかりを調べていて、他の職種が具体的にどのような仕事をしているかなんて知る術もなかった。いろいろな職種があることを知ると同時にあることを思い出した。

「自分の大好きな飛行機を自分の手によって飛ばすことができたらどんなに素晴らしいことなんだろう。」

幼い頃にコックピットの見学をし思ったことである。実際にパイロットとして飛行機の操縦桿を握り飛行機を動かすことは出来ないかもしれないが、他の職種でも間接的に飛行機を飛ばすことができるのではないか？こう考えたからこそ、あれだけこだわっていたパイロットの夢を捨てて総合職の道を選んだのだと思う。

今回、このような機会がなければ不安を抱いたまま入社をし、なぜ自分がこの職種を選んだのかということを考えずに仕事をしていたかもしれない。

自分は確かに飛行機が好きで航空会社に入るということにこだわっていたということはあったと思う。しかしそれだけではなく、自分には総合職としてのしっかりとした目標がありその目標があったからこそ今内定を貰っている会社の総合職の道を選んだのだと思う。

来年、もし仕事が辛くなり挫折しそうになったらこのレポートを読み返そうかと思う。

4、おわりに

この授業を受講してから、この終わりにを書いている今日までの約4ヶ月間、人生でこんなに考えながら文章を書いたという経験が、今まではなかったのではないかと思った。今回この授業の一番の特徴として、自分が書いた文章を他人に見られ評価をもらうということがあった為に、読み手に伝え、評価をもらう為にはどのように書けばよいかということを毎回考えていた。

私は元々、文章を書くということが苦手でこの授業を受講しようと考えた。

今、自分を書いた文章を読み直してみて、他の受講者に比べまだまだな点も多かったりするが、自分の評価としては正直に自分の考えていることが述べられていると思った。

今年の4月からは、今回のレポートにも書いてある通り、航空会社に就職する。社会人になったら、自分の考えを他の人達に伝えなくてはならない機会も増えてくると思う。今後は、今回の授業で培った文章力で、相手に納得させられるような文章を書いていきたい。

自分にとって初めてのオンデマンド授業であったが、新鮮でとても楽しかった。社会人になってからもこのような授業なら受講してみたいとも思った。

4ヶ月間、ありがとうございました。